〈研究ノート〉

エコノミクス
第4巻第1号
1999年8月

モンスター・ショップ;シュールブレッド商会再考

徳島　達朗

まえがき

筆者の理解ではモンスター・ショップとは19世紀前半（20年代頃）に出現した大規模小売店であり，それは反物・服地商 Drapery に限定されるものである。産業革命のトップ・バッターとして登場した木綿工業 Cotton Trade の生産面の変革に対応する流通面の変化を示すものとして重要な存在である。またその経営方針も当時としては革新的な内容を有していた。さらに，19世紀後半に発展する百貨店 Department Store の萌芽がそこにはみられるのである。

モンスター・ショップ=「シュールブレッド商会」については，『市場史研究』第15号（1995年11月）「特集　百貨店の成立を考える」掲載の徳島達朗「タリス『街路案内』を読む—イギリス百貨店成立史の一齣として—」および徳島達朗『新版　近代イギリス小売商業の胎動』（梓出版社 1997年）［5］を参照されたい。イギリス流通史関係の文献にみる「シュールブレッド商会」を紹介し，その重要性を確認する作業を再開する。

1　*Tallis's London Street Views.* [11] タリス社『ロンドン街路案内』第49号掲載のシュールブレッド商会は以下のとおりである。

＊「挿絵のシュールブレッド・クック・カンパニーの店員数はロンド

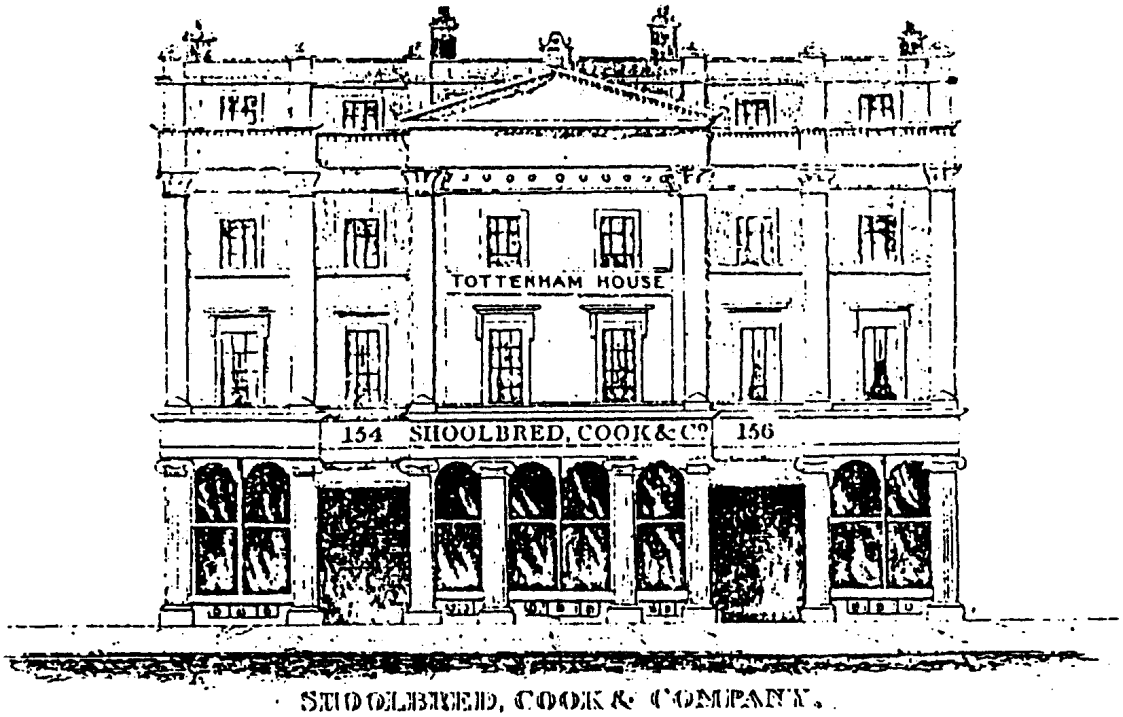

図1　シュールブレッド・クック・カンパニー

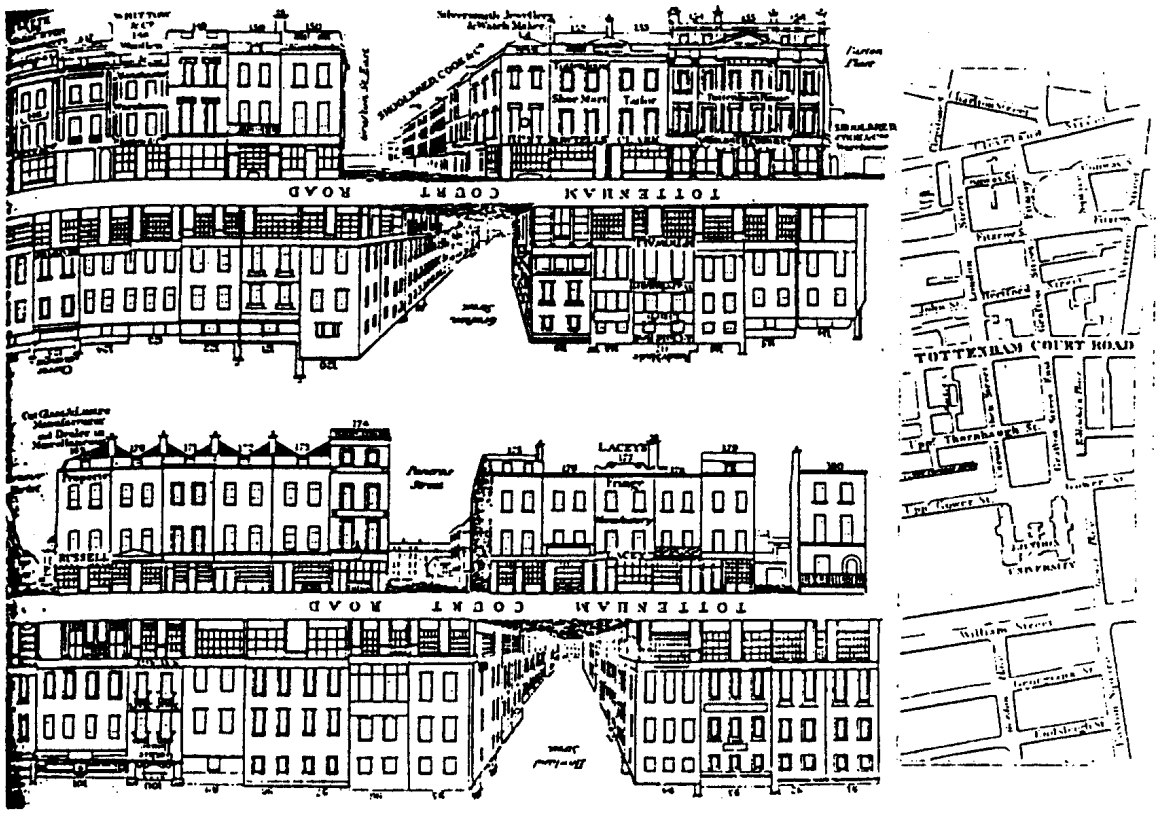

図2　シュールブレッドの表記のある図版

図3　シュールブレッドの広告

ンのこの業界では文句なしに最大で，常時大きな在庫を有している。リネン，ウール，シルク，小間物類，カーペット，敷物，モリーン，ダマスクス，インドサラサ，シルク・タバレット織，その他各種生地，各種備品等，王国中のどこよりも豊富に選べる。トテナム・コート・ロードは，25年前には営業者はとても少なかったが，現在では首都のどこよりも小売商店が軒を並べる繁栄ぶりである。」（図1，2，3）

2　Ferry, J. W., [13] pp. 203-4. フェリーはロンドンの小売業史におけるシュールブレッドの位置を再評価すべきであると，以下のように述べている。

＊ロンドンの小売業の年代記におけるシュールブレッドの設立の早期性と名声の高さを考えると，百貨店の分野での先駆性は賞賛に値すると思われるが，現実にはそうなっていない。これは驚くべきことである。19世紀の30年間，シュールブレッドの競争相手であったホワイトレイがベイウオーターに最初の店を開く半世紀前に，シュールブレッドは呉服店を開いているのである。いくつかの消費生活協

同組合の店舗（Army & navy, Civil Service＝徳島）を別にすれば，ハロッズが1880年代に発展するまでは，シュールブレッドとホワイトレイこそが，百貨店の名に値する存在だったのである。また，同店は上流階級を顧客対象とし，ヴィクトリア期の高級な商店のもつ重々しく礼義正しい雰囲気の中で，最高級品を提供し，ロンドンにおける最高級服地商の評価を得たのである。シュールブレッド家によって維持された初期の上品さ，「古い流儀」は，その後長い間持続した。また，大規模服地商の店員の勤務条件が満足すべき状態でない時代に，シュールブレッドは店員の待遇で評判をとり，理想的な住込み条件を用意したのである。（図４）

図４　1900年頃のシュールブレッドの写真

3　Report from the select Committee on Manufactures, Commerece, and Shipping; with the Minutes of Evidence, 19 August 1833.「**1883年下院特別委員会報告**」[12] における「シュールブレッド商会」に関連する証言を摘出する。

＊ James, Thomas. ジェイムズ証人（wholesale linen draper, silk mercer, woollen draper）は委員会の質問に答えて，「この２，３年

の間に若干の大規模商店が出現し，取引は10年前と比較して大商店に集中しております。」［質問番号1414］

＊ Loyd, Lewis. ロイド証人は委員会の質問に答えて，つぎのように述べている。「商取引の変化のために，小売店が苦しんでいるということはまったくそのとおりです。2，3の大規模商店が成長しており，そこには欲しい商品がなんでもそろっています。そのような大商店へ買い物に行くことが，大変流行しており，小商店は見捨てられています。」［質問番号527］

4　Alexander, David., ［4］ pp. 107-109. 大略以下のように述べている。

＊大規模商店は都市の小売業に大きなインパクトを与えた。小売業では全般的に店舗規模は拡大する傾向にあったが，当時，「モンスター・ショップ」として知られていたものは，反物業 drapery 関連の業界に限られていた。

＊1833年，トマス・ジェイムズ氏，彼はシティーの有力な卸売商人であるが，次のように述べている。「この数年の間に，いくつかのかなり規模の大きい商店が成長してきており，過去8年乃至10年前と比べると，取引はますますこうした商店が集中してきています。」

＊こうした大規模反物店の実例をあげることができる。グラスゴーで，ジェームズ・アンド・ウイリアム・キャンベルは1817年にソルトマーケットで開店し，1825年には規模を拡大し，キャンドルリグズ・ストリートに移転した。彼らは定価制，現金販売制を導入し，「現在では王国のどこの町でもみられるモンスター・リテイル・ハウスの元祖」を設立したのである。1850年までに，キャンベルはスコットランドの最大の卸小売商になっており，年間総売上百万ポンド，雇用者300人であった。

＊19世紀の半ば，トテナム・コート・ロードのシュールブレッド・アンド・カンパニー Shoolbred and Co.はイギリスの最大の小売反物商であった。同店は従業員500人を住込み賄いつきで雇用しており，年間総売上は幾百万ポンドに達した。

5　Jefferys, J. B., ［8］, pp. 19-20　シュールブレッドに関する言及は

大略以下のとおりである。

＊19世紀半ばにおいては，イギリスに存在する現代的なセンスで規定されるような百貨店は全然存在しなかったということはかなり確かなことである。しかしながら，当時においてもロンドンのシュールブレッド Shoolbred やグラスゴーのキャンベル J. & W. Campbell のような中規模の反物商は，限られた反物にとどまらず取扱い品目を拡大し始めていた。

＊次の25年間で真の百貨店が出現した。これらの百貨店の大部分は，かなり以前に設立はれた商会であり，ロンドンのシュールブレッド Shoolbred，ポインティング・ブラザース Pointing Brothers，マーシャル・アンド・スネルグローヴ Marshall & Snelgrove，グラスゴーのアンダーソンズ・ロイヤル・ポリテクニーク Anderson's Royal Polytechnic などであるが，それらは反物 drapery，布地商店 clothing shops から成長したもので，異なる商品タイプ販売部門を追加したものである。その他は最近設立されたもので，ホワイトレイ Whiteley's，シビル・サービスサプライ・アソシエーション Civil Service Supply Association，アーミイ・アンド・ネヴィ・コーポレーティヴ・ソサエティ Army and Navy Cooperative Society であるが，すべてロンドンの商会である。これらの商会はその販売部門を急速に拡大したのである。

＊**同上書，p.326** イギリスでは19世紀の半葉まで上記の基準による完全な百貨店 Full department store は出現していないが，部分百貨店 part department store はすでに営業していた。(ジェファリーズが与えている定義では，完全な百貨店とは一つ屋根の下で，独立した4部門を有する大規模店で特に婦人・子供衣料を取扱うものとしているもの。＝徳島)その顕著な例はおそらくシュールブレッド商会であり，1820年の創設である。その他にも大規模反物店があり販売商品の幅を広げてきている。

＊**同上書，p.326** 25年後，70年代，80年代に，最初の完全な百貨店が出現した。この百貨店には二つのタイプがある。第一のタイプの

商会は，前述のように4分の1世紀以上にわたり徐々に取扱い品目を拡大してきたのである。第二のタイプの商会は，急速に，5年ぐらいで品目を拡大し，部門にわけて営業している。前者のうち，80年代に最も著名であったのはシュールブレッド，ポンティング・ブラザーズ，メイプルズ，ハロッズ（1849年創設），マーシャル・アンド・スネルグローヴ，ジョン・バーカー，スペンサー，ターナー・アンド・ボルデロ（1840年），デベナムズ（1778年），アンダーソンズ・ロイヤル・ポリテクニクである。第二のタイプで最も著名なものはウイリアム・ホワイトレイで，1863年に設立され，4年内外で，10の独立部門を有した。シヴィル・サービス・サプライ・アソシエーションは1866年に，アーミ・アンド・ネイビー・コーオペレーティブ・ソサエティは1871年に設立された。

＊同上書，p.330 80年代において，ホワイトレイが最大の商店であり，二千人の従業員を雇用していたが，その他の商店も急速に拡大し始めていた。例えば，シュールブレッド，ジョン・バーカー，スペンサー，ターナー・アンド・ボルデロ，ハロッズの従業員数は五百をこえ一千人に達せんとしていた。デベナム，マーシャル・アンド・スネルグローヴ，ションズ・オブ・ホロウエイの場合は五百人の従業員であった。昇降機 life とエスカレーター moving staircase が設置され顧客が容易に階上へ行けるようになった。レストランとティールームが大規模店の特徴となりショッピングに楽しみを加えた。最大の百貨店では便所 rest-room やライティング・ルーム writing-room すら設置された。

6 Adburgham, Alison., [10] pp. 13-14

ジェームズ・シュールブレッドはトテナム・コート・ロードに，1817年にやってきたのであるが，その3年前に，セント・ポール寺院境内の装身具卸売商 wholesale outfitter，クック・アンド・サンズ Cook & Sons の創設者の兄弟の一人と共同でシュールブレッド・クック・カンパニー Shoolbred, Cook & Co.を設立し反物業 drapery business に参入している。シュールブレッド商会は当初から装身

具，反物のほかに新分野であるカーペットやカーテン soft furnishing を取扱い，さらに食料雑貨 grocery や玩具に参入し，最初の百貨店のひとつになった。華やかさが西へ移動し，ブルームズベリ Bloomsbury が社会的に地盤沈下したのちでさえも同商会は上流階級の家族とコネクションを維持した。1842年に装身具のメイプル Maple が隣接ブロックに設立され，さらに1810年にラスボン・プレイス Rathbone Place で起業したジョン・ハリス・ヒール John Harris Heal が家具店として有名になってきたのでトテナム・コート・ロードへ移転してきた。

7 Adburgham, Alison., [9], p. 106.

＊ジェームズ・シュールブレッド James Shoolbred は，1817年にトテナム・コート・ロード Tottenham Court Road にでてきた。反物業の営業はその3年まえにシュールブレッド・クック・カンパニーとして開始されていたが，場所はセント・ポール寺院境内であった。トテナム・コート・ロードへの移転は賢明であった。建築家のトマス・キューピット Thomas Cubitt，彼はすでにカムデン・タウン Camden Town，ストーク・ニューイングトン Stoke Newington，ハイベリ Highbury など，多くの開発をおこなってきているが，彼はベドフォード公爵 Duke of Bedford とブルームズベリ Bloomsbury 北側の開発について相談していた。ベドフォード・スクエア，ラッセル・スクエア，タヴィストック・スクエア Tavistock Square，ゴードン・スクエア Gordon Square がつながり，1814年までにすべて完成した。トテナム・コート・ロードと平行に走るゴウアー・ストリート Gower Street には多数の上等の商店が出店していた。そして1822年にウオバーン・ウオーク Woburn Walk が，ブルームズベリ北側へ移動した豊かな専門職家族のための商店街 Shopping street として設計された。シュールブレッドの施設は急速に拡大しトテナム・コート・ロードの家屋番号154—6を占め，正面は2階におよぶウインドーが優雅なイオニア式円柱で支えられていた。当初からの反物類，装身具のほかにカーペット，室内備品が，その後グ

ローサリや玩具も販売するようになった。19世紀の中葉までには，シュールブレッドは高級品で評判をとり，住込みで500人の従業員を雇用する百貨店となっていた。

シュールブレッドの成功はほかの小売業者をトテナム・コート・ロードにひきつけた。特に1841年にはメイプルズ Maple's がシュールブレッドの隣に出店した。その2年前には，少し南の196番のミラーズ・ステイブルズ Millar's Stables として知られる建物が，ジョン・ハリス・ヒール John Harris Heal の手にわたったが，彼の父親もジョン・ハリス・ヒールといったが，1805年にドーセット Dorset のギンガム Gillingham からロンドンにでてきたのである。彼は最初はレスター・スクエア Leicester Square の羽毛ドレスの商会で働いていたが，1810年にラスボン・プレイス Rathbone Place 33 で，自らマットレス製造所を設立した。1833年に彼は死亡し，未亡人のファニイが1840年まで事業を継続した。その後，ミラーズ・ステイブルズに移転し，息子が事業を引継ぎ再建したものである。

＊**同上書，p.128** 住込み制度 the living-in system は徒弟 apprentice が主人の家族といっしょに生活するという慣行から自然に発展したものである。多くの店員見習い shop assistant は地方出身の青年であり，首都で就職する以前に故郷の町で徒弟であった者か，ロンドンで子供の時に徒弟であった者であるということに思いをいたすべきである。この制度では，彼らが寄宿，食事の世話を前提とすることが肝心なことなのだが，彼らが成長するにともない，家父長的な制度 paternal system はあきられてきた。寄客舎はヴィクトリア期の制度の規制をすべてそなえていた。事実，寄宿舎は家父長的なものから制度的なものへ変化していった。寮の状態は不埒なほど過密で，寝室は共同で，時にはベッド自体が共用であった。娯楽の部屋などはなく，食事は粗末で，日曜日には食事はでなかった。なかには日曜日に宿泊者を追い出す寮すらあった。そこで訪ねる友人のない者は，座ることができる温かい場所として，余儀なく一日に3回も教会へ行くことになった。一般的には，ウエストエンドの商

店は，シティや郊外の商店より良好な宿泊施設を提供した。労働時間は午前8時から午後8時まで，夏はもう少し遅くまでであった。1842年に閉店時間短縮組合 the Early Clothing Association が結成されたが，主要な反対者は夜7時以降も営業する，繁盛している郊外の低価格販売の反物商や食物店のオーナーであった。1860年代の半ばまでに，ウエストエンドのいくつかの商店では，土曜日には午後2時に閉店していた。そのなかには，デベナム・アンド・フリーボディ，マーシャル・アンド・スネルグローヴ，シュールブレッド，ルイス・アンド・アレンビがあった。スワン・アンド・エドガー Swan & Edgar は冬場は土曜日も含め午後6時に閉店し，夏場は午後7時であった。

8 Lancaster, Bill., [2] pp. 132-3.

＊1886年の「商店営業時間特別委員会」the Select Committee on Shop Hours 報告によるとロンドンの大規模店の営業時間は次のごとくである。

＊シュールブレッド（＊ Lancaster は Schoolbred's と誤記している＝徳島）（従業員700名）

冬季　午前8時30分より午後6時まで
夏季　午前8時30分より午後7時まで
土曜日　通年午後2時閉店

＊マーシャル・アンド・スニルグローヴ（Marshall And Snelgrove's）（従業員500名）

冬季　午前8時15分より午後6時30分まで
夏季　午前8時15分より午後7時まで
土曜日　午後2時閉店

＊ジョン・バーカー（John Barker's）（従業員400名）

冬季　午前8時30分より午後6時30分
夏季　午前8時30分より午後8時まで

＊スペンサー，ターナー，アンド・ボルデロ（Spencer, Turner, And Boldero's）

年中　　午前8時より午後7時まで
土曜日　　午後2時閉店
＊デベナム（Debenham's）（従業員400—500名）
冬季　　午前7時より午後6時まで
夏季　　午前7時より午後7時まで
土曜日　　午後2時閉店

参考文献

[1] Benson, John. And Shaw, Gareth., *The Evolution of Retail Systems c1800-1914.* 1992 Leicester University Press. p. 138, 139, 140

[2] Lancaster, Bill., *The Department Store A Social History.* 1995 Leicester University Press. *P. 90, 133* ただし Schoolbred と誤記している。

[3] *Fraser, W. H., The Coming of the Mass Marlet 1850-1914.* 1981 Macmillan P. 130, 194

[4] Alexander, D., *Retailing in Engalnd during the Industrial Revolution.* 1970 University of London The Athlone Press. P. 108, 183, 189, 190 ただし，Schoolbred and Company と誤記している。

[5] 『市場史研究』第15号　1995年11月　＊特集「百貨店を考える」所収　徳島達朗「タリス『ロンドン街路案内』を読む—イギリス百貨店成立史の一齣として—」
徳島達朗『新版　近代イギリス小売商業の胎動』梓出版社1997年第4章，第5章。

[6] Whitaker, W. B., *Victorian and Edwardian Shop Workers.* 1973 David & Charles Newton Abbot. P. 68, 92

[7] Hoffman, P. C., *They Also Serve The Story of the Shop Worker.* 1949 The Porcupine Press London. P. 163, 197

[8] Jefferys, J. B., *Retail Trading in Britain 1850-1950.* 1954 Cambridge University Press. P. 19-20, 326, 330

[9] Adburgham, Alison., *Shopping in Style London from the Restoration to Edwardian elegance.* 1979 Thames And Hudson. P. 106, 128, 138, 140, 141.

[10] Do., *Shops And Shopping 1800-1914.* 1964 George Allen And Unwin. P. 13-14, 125, 142, 150.

[11] *Tallis's London Street Views,* No. 49 (n.d.)

[12] British Parliamentary Papers; *Report from the select Committee on the Manufacture, Commerce, and Shipping: with the Minutes of Evidence,* 19 August 1833.

[13] Ferry J. W., *A History of the Department Store.* 1960. pp. 203-4.